

## 環境創造センター県民委員会議事概要

### 1 日時

平成28年3月14日（火）14：00～16：00

### 2 場所

環境創造センター交流棟「コミュタン福島」 会議室

### 3 参加者

#### (1) 委員

河津委員長（福島大学）  
和合委員（商工会議所連合会）  
平久井委員（消費者団体連絡協議会）  
金子委員（婦人団体連合会）  
佐々木委員（小学校校長会）  
小林委員（PTA連合会）

#### (2) 事務局

福島県環境創造センター（福島県）

所長	角山 茂章
副所長	佐藤 弘美
総務企画部長	鈴木 秀寿
研究部長	佐々木 一男
調査・分析部長	鈴木 仁
環境放射線センター所長	熊坂 雅彦
企画課長	柏倉 晋
技師	淵上 修平
主事	緑川 遼太

日本原子力研究開発機構 福島環境安全センター（JAEA）

センター長	宮原 要
副センター長	時澤 孝之
副センター長	浅妻 新一郎
計画管理室長代理	阿部 寛信

国立環境研究所 福島支部（NIES）

支部長	滝村 朗
主席研究員	玉置 雅紀
管理課長	渡邊 充

#### 4 議事内容

議事に入る前に、事務局より河津委員に委員長を推薦する提案をし、了承された。

その後、環境創造センター県民委員会設置要綱第3条第4項に基づき、河津委員長が議事を進行した。

以下、議事概要を記載。

##### (1) 議題1「平成28年度環境創造センター事業報告について」

資料1, 2-1, 2-2に基づき、事務局より、平成28年度の主な事業の取組について説明を行った。

##### ○ 河津委員長

事務局の説明に対し、JAEA、国環研より追加することはありますか。

##### ○ JAEA 宮原センター長

部門長の意見の中にもあるが、3機関の連携が重要になってくる。我々の成果という、論文の執筆など技術的な部分になってくると思うが、3機関で共同論文を作成するという動きも出てきている。また、こうした技術的な情報について住民の方にどのように届けるかが重要だと考えている。4月11日に3機関合同で研究成果発表会を開催するが、我々が単独で開催しても関係者が多くなってしまいが、昨年11月に県の方で開催された報告会では、県民や市町村の担当者など、本当に情報を必要としている人が来場していた。そういう意味でも、4月11日の成果発表会には期待している。

##### ○ NIES 滝村支部長

連携に関しては宮原センター長がおっしゃったとおりで、これまでそれぞれの機関で実施してきたが、最初の入居式でも「一つ屋根の下で」と申し上げたように、日頃から研究者同士の連携を深めており、その一つの節目がこの成果発表会になると考えている。

##### ○ 河津委員長

ここまでの説明で、御質問、御意見があれば伺いたい。

ここの施設は、国の機関で言えば環境省や文部科学省などに横断しており、全国的に見てもかなり珍しい施設だと思う。そういう意味では、連携することによって、風通しが良く、また地元にとってもなじみやすい研究ができると思う。これから次年度計画についても説明があるが、今年度の取組の中で御意見があればお願いしたい。

○ 金子委員

研究成果の報告について、県民に分かりやすく伝えるという話があった。私も11月に来て話を伺ったが、研究者の方には良いかもしれないが、素人には難しかったかな、というのが実感。また発表会を開催するというのであれば、もう少しかみ砕いて説明していただきたい。若手の方が研究をしていて、素晴らしい研究だとは思いますが、長時間聞いていると一般の人には難しかったと感じたので、できればかみ砕いて説明してほしいと思った。

それから、先程研究棟の方を見学させていただいたが、廃棄物が25分の1になって、という話を伺ったが、研究の段階と言うことでよろしいか。廃棄物についてはすごい量になっているが、具体化は。

○ N I E S 滝村支部長

廃棄物等については、県内でも大きな問題になっている中で、減容化にはどのような技術的な可能性があるだろうか、という検討をしている。その一つが先程研究棟でご覧いただいたものである。これは、社会での受け入れ方や他の技術との比較もあり、実際のやり方というのはこれから決まっていくことかと思うが、我々としては研究の一つとして提示させていただいており、あくまで研究段階である。

○ 金子委員

先程の研究棟見学の際に放射能の分析の中で、研究成果としてストロンチウムの測定が短くできたとの話を聞いた。私たちは、地域で、ベクレルセンターというところで食品の検査をしてもらっているが、検査するのに500g必要だと言われている。行者ニンニクを栽培している方の話を聞いたが、500gも持って行くと、もうけが無くなってしまうという話も聞いた。こうした検査が何年続くかわからないが、少量でも測定ができる機械があると、農家の方への負担は減るのでは無いか、と聞いていて考えていた。

○ J A E A 宮原センター長

標準的な測定、どの程度のボリュームでどの程度正確に測るかを決めている場合では、おっしゃるような検体の量が必要になってくると思うが、標準的で無い簡易な測定であれば、技術がある。できれば標準で図る方が良いかと思うが、ニーズに合わせてそうした測定も可能ではある。

○ 金子委員

その方は三春の里に野菜をおろしている方だが、きちっと図っていないと出荷できない状態であるので、先程技術はあるというお話しだったが、そうした結果は反映されないということか。

○ 河津委員長

ベクレルセンターで測っているというお話しがあったが、そうした測定では測定するため手法が量的にも形状的にも固まっているものでしか測定できない状態であると思われる。そうしたものがもう少し緩和されてくれば良いと思うが、今、非破壊検査機なども出てきていて、このような測定器の普及が進めば良いと思うが、行政から何かあればお願いしたい。

○ 福島県 熊坂環境放射線センター所長

我々の方で、原発周辺の水や土の測定を行っているが、我々が行っているのは、いかに少量の放射性物質を測定するかということを課題としており、そのためには水なら20リットルなど、多くの試料が必要。それを薬品を使用したり、水であれば蒸留させたりして、0.001ベクレルの少量の放射性物質を測定している。逆に試料の量が少なくなれば、不検出と出るかもしれない。これをどこで線を引くか、という問題になってくる。

○ 河津委員長

なかなか難しい話だと思う。私もいろいろな話を聞くと、必要とされているのは、今家で作っているものが100以下なのか以上なのか、という素朴な疑問だと感じている。それが担保できる機械であれば、それはそれで需要があるのでは無いかと考えている。正確性は技術的に重要ではあるが、社会での受け入れとしては、今日の前にある問題と齟齬があるのかな、と感じている。

その他に委員からあればお願いしたい。

無ければ議事2について事務局から説明をお願いしたい。

(2) 議題2 「平成29年度環境創造センター年次計画(案)について」

資料3-1、3-2に基づき、事務局より次年度の計画について説明を行った。

○ 河津委員長

JAEA、国環研から、来年度ここを中心にやりたい、付け足したいことがあればお願いしたい。

○ JAEA 宮原センター長

原子力発電所の事故から6年が経過しようとしているところで、原子力機構として重要視しているところは、4月までに避難指示が解除になる町村が複数ある、というところ。住民の方が帰還するとなった際に、我々が蓄積してきたデータが住民の方に届かないことでは意味が無いと考えている。データを示すだけで無く、これをどのように活用すれば里山の再生や農林水産業の復興につながるか、町村のニーズも踏まえ、そうした情報をまとめて提供し、復興につなげていきたいと考えている。

○ NIES 滝村支部長

国環研では、廃棄物関係がいかにスムーズに処理されるかというところがポイントだと考えており、そのための実証実験も昨年末に土壌を搬入して開始したところである。今年はそれらの成果を出していき、加速化につなげたいと思っている。環境回復関係では、これから帰還が徐々に進んでいき、長期的な環境管理をどのようにしていくかというところで、流域で放射性物質がどのように動いていくか、あるいは生物の間でどのように動いていくかという情報を把握するとともに、成果を必要なところに届けていくということを心がけていきたいと考えている。

○ 河津委員長

ここまでで、何か質問等があればお願いしたい。

○ 小林委員

私はPTA連合会の立場で保護者の立場で、学校の先生とは違った立場になる。この施設は誰が見ても素晴らしい施設だと思うが、本来対象となる学年について、学年に応じた説明になると思うのだが、どの辺を捉えているのか、というのが正直な意見。それと、昨年末に福島の高校生が原発内に視察に行っているが、私がこのことについて是非を言う立場では無いが、原子力のことを聞きたいのであれば、こちらが最適なのでは無いかという想いがあった。どの学年の子どもたちが来れば良いのか、アバウトなところでもお答えいただきたい。それと、周知の方法について、先程視察した小中学校が170校程度と伺ったが、私の記憶では小中を含めれば640校、700校弱の学校があったと思う。また、県外の方にも見ていただきたいと思うが、その方法についてお聞かせ願いたい。

○ 福島県 佐藤副所長

まず対象であるが、全ての県民、全ての方が対象となる。このコミュニタン福島の展示は、放射線というものはわかりにくいと言うこともあり、体験型の展示で自分の体を使ってわかりやすく知っていただく、ということ前提にしている。その上で、小学校高学年の方には理解できる、県内小学校5年生の方には全員来ていただきたいと言うことで、バス代の支援等をしている。その背景というのは、もちろん大人の方にも全員見ていただきたいと考えているが、特に若い方に来ていただきたい、その上で正確な情報を得て、自ら考えて行動できるようにしていただきたい。小林委員がおっしゃるように、小学5年生の方だと、情報を得ることはできても、自ら考え、発信するという部分については中学生、高校生となっていくかもしれないので、現在、中学生、高校生向にも取り組んでいるところである。

高校生の原子力発電所の視察の件があったが、展示を行っていく中でいろいろな御意見をいただいている。例えば3. 11を振り返るコーナーでは、原発事故直後の模型が展示されているが、今現在はどうなっているのかというお話もいただく。別のところにライブカメラがあり、現状を見ていただけるようになっている。また、放射線の仕組みに関する展示があるが、体への影響はどうなっているのか、という御質問を受けている。展示については、これで最終では無く、その時々で御意見を踏まえて変えていく必要があると考えている。

3つめの県外からの誘致だが、現在、県外の団体など、視察に多数来ていただいている。福島県の一番の課題は何かというと、教育旅行であったり、人口減少の問題であったりする。実際に来て、一人でも多く見ていただきたいと考えており、機会を見て紹介させていただいている。また、県内教育旅行の補助等もあるので、活用していただきたい。

○ 福島県 角山所長

高校生の方でも、放射線に関する教育については、まずこちらに来ていただくのが順当なステップだと考えている。ついこの間、経産省の副大臣がいらっしゃったときに、原子力発電所の模型を見て、現状が見られると良いですね、という意見をいただいた。そういった意味で、どのような推移で現状がどうなっているのか、ということ、現地に行かなくてもこちらで見いただければと考えている。

○ 河津委員長

先程5年生という話もあったが、昨年度は、旅費や見学の時期の問題などの議

論もあったと記憶している。そのような点で、校長会として、佐々木委員から何かあれば御意見をお願いしたい。

○ 佐々木委員

私は昨年県の行政の方において、先生方にこの施設を使うようにPRする仕事もしていた。昨年度問題となったのは、学校は前の年に全ての計画を立ててしまうので、年度の途中でこういうことをやって下さいといってもなかなか入れにくかったということがあった。県の方で旅費の補助が決定したのも遅かった。そうした理由で今年度は少なかったのではないかと思う。今年になってだいぶPRもできたし、29年度の計画について、校長会でこの施設を使うようになりPRをしてきていることから、来年度の来館は増えるのではないかと考えている。

○ 福島県 鈴木総務企画部長

昨年度は予算がなかなか決まらなかったということもあって、PRがなかなか難しく、また、7月の開所ということもあって、来館できる学校が限られてしまった。来年度については、既に補助事業の実施や見学申込みについてもご案内し、数多く申込みをしていただいております、多くの学校の来館を期待しているところではある。

○ 河津委員長

逆に多くて困る、ということは無いか。

○ 福島県 鈴木総務企画部長

日にちや時間が集中して、この日の見学は難しい、ということがある。

○ 福島県 佐藤副所長

今年度の事例で言うと、大体午前中の平日に集中する傾向にある。このセンターは工業団地の中にあるが、団地内にはデンソーやシチズンさん等の工場も入っており、工場見学をやっている。例えば午前中にセンターを見て、午後にデンソーさんの工場を見ていただく、ということもできるし、逆もできる。このように、午前中に集中しているところを、分散させるような方策をとっているところではある。

○ 河津委員長

逆に、委員の方から、こういう風にしたら良いPRになるのではないかと

いう意見があれば伺いたいが、いかがか。

○ 和合委員

まず福島県内でも、このことがわからないという方が多い。たくさんの方が来る場所、例えば銀行さんの窓口などにおいていただくなど、今年はそういうところを心がけてほしい。県外からというお話しもあったが、東京でも八重洲物産館やM I D E T T Eなどがあるが、そういうところにも情報が無いので、こうしたところにもパンフレットを設置するなど、PRをしていただきたい。パンフレットを各家庭に一冊ずつ置くくらいのPRをしても良いのでは無いかと考えている。

私もいろいろな機会を見て、こちらに来ていただくように話をしているが、交通機関がどのようにになっているか案内がされていない。我々は車を持っていて、大体あのあたりに行けば良いということがわかるが、一般の方たちはわからない。また、外から来た人の輸送経路がわからない。去年はこちらで国際会議を開くという話も伺ったが、団体の人に対してはちゃんと手配をするようになっているが、一般の方々の交通の便について入り書していただければと思う。

教育の面で話もあったが、環境については子どもの頃からの教育が大切であるので、なるべく多くの福島県民、子どもたちを誘導できたらと思う。昨年オープン間もなく和歌山の子どもたちを連れてきて、色々とわかりやすく教えていただいたが、特に放射線に関する体験、実験が非常に子どもたちに喜んでもらえて、ここから福島に帰る途中に復習会をするほどだった。和歌山に帰った後にも、向こうでは体験できないことをできたとおっしゃっていて、是非今年も行きたいという風に向こうの教育委員会から打診を受けているので、お願いしたいと思う。この子どもたちは、前日に相馬の子どもたちとあって、話をしてもらった。県外から誘致をする際は、こちらだけで無く、現地に行って話を聞くことが効果があると、昨年から取り組んできた経験から、そのように思う。

あと、こちらの資料3-2の9ページ、ウの環境回復の①「平成28年度に収集した県内外において環境回復・創造に向けた取組を行っている団体等の情報を広く県民へ周知していくため、」とあるが、このあたりが理解できないので、教えていただければと思う。

もう一つ、ホームページをこれから作られて、分かりやすくと言うことであるが、専門家の人の他、一般の人も見えてわかるもの、そして子どもたちが常に開いてみてもらえるような、わかりやすいものを作っていただければと思っている。

○ 平久井委員

こちらへ来る前に、別な会議で「このような会議がある」という話をしたところ、「そのような会議があるの？」という回答を受けた。ここへ来る前にも、福島市のコラッセ福島でこの施設がどこにあるのか職員に聞いたら、「こういうのがあるのか」という反応だったので、チラシをもっと周知に使用してほしい。例えば二本松の男女共生センターで、私たちはアンケートやイベントの時に使用するが、千葉県の教育委員会の方など、広い範囲で出入りしているので、公共の場を使ってコミュタンの名前を広げてほしい。

バスが今、土曜日曜出ていると思うが、私の年齢になると、バスを利用してここに来たいという方もあると思う。土日の他に平日も、ここだけで無く相談所とか、申込みがあればバスを出すなど、空席のバスが出ないようにするなど工夫をして取り組んでいただきたい。

ここに来る前に下見に来たが、入るところを間違えてしまったので、どちらからでも入れるように案内板に予算を取っていただくことが必要だと思う。

最後に、私はこの中で一番高齢だと思うが、40年も前から反対してきた原子力発電所がこのような事故になってしまって、第一原発を2度見学させていただいたが、ショックでどうしようというくらいだった。しかし、今日ここにこさせていただいて、県職員の方、国の研究機関の方も一生懸命にやっている姿をみて、希望につながった。今まで授かってきた地球を汚してきてしまった私たちだが、これから皆さんの力で復帰できると感じた。子どもたちが、じいちゃんばあちゃんと来て、今度はお父さんお母さんと来よう、そういう小さいときから環境に対する意識を向上させていければと思う。

この間下見に来たときに、「ここに来ると目を塞ぎたくなるんだ、とおっしゃるお客さんもいらっしゃるんですよ」と職員の方がおっしゃっていたが、そうではなくて、県や国の建物は敷居が高いと感じていたが、今日は丁寧に説明いただいた。今日のことは、会の仲間に伝えていきたいと思う。

#### ○ 金子委員

情報の発信と言うことで、先程和合委員がおっしゃったように、広報が大事だと思うが、私たち主婦に対してどのように広報していくのが良いかというところ、広報で回覧板が回ってきて、モニタリング結果が入っている。ここでも、年1回くらいで良いので、4つの取組や経年の変化について広報でお知らせいただけると一般の方には分かりやすいと思うので、取り組んでいただきたいと思う。

#### ○ 河津委員長

昨年度、市町村への広報誌に投稿したらどうかという話もあったが、今後どのように広報するかというところについても含めて、全体的に事務局から説明

をお願いしたい。

○ 福島県 佐藤副所長

和合委員、平久井委員、金子委員から御意見をいただいた。

まず、資料3-2の9ページ「環境回復・創造に関する団体等の取組事例の収集」については、これは今までいろいろな団体で蓄積してきたデータがあって、これを集約していこうというところから始まっている。その中でも①の部分は、県で「環境団体ネットワーク」というものを持っていて、NPO等の団体が行っている活動を、県だけで無くいろいろなところへ発信しようというところで県が行っている事業である。

それから、パンフレットなどを様々なところに置いた方が良いという御意見をいただいたが、まさにその通りで、具体的な検討はこれからになるが、多くの人の目にとまる場所にパンフレットを置くように工夫したいと考えている。

3つめに、交通手段の話があった。現状は、郡山駅東口からこちらにシャトルバスが土日祝日に出ているが、これを見直し、土日祝日だけでなく平日も、日中一日4往復、三春駅から三春町の町営バスで運行することになり、そのルートの中にここが経由地になる。これはJRのダイヤに併せて運行することになるので、自家用車でなくとも、平日に町営バスで来ていただけるように進めている。

モニタリング結果の回覧板の話があった。現状、三春町や田村市にその時々の記事を掲載させていただいている。具体的には今後になるが、いずれにしてもセンターの取組を分かりやすく伝えるものにしていきたいと考えている。

○ 河津委員長

他に委員の方から意見が無いが。調査研究についてはわかりにくいことが多いかもしれないが、素朴な疑問が大切だと感じている。最近他の場所でも話があったが、山にある放射性物質が、除染しないといけないのではないかとか、下に落ちてくるのでは無いかとか、先程のJAEAの説明でも0コンマ数パーセントという話があったが、そういう話がなかなか伝わっていないと思う。普段から感じていることでも良いので、御意見があればお願いしたい。

○ 小林委員

委員長がおっしゃったとおり本当に素朴な疑問になるが、私はいわき市に住んでいるが、側溝の掃除がなされていない。学校にはモニタリングポストもあるので、空間線量が低いと言うことはわかるのだが、果たして事故が起こってからそのまま良いのか、一度いわきの会議で発言したことがあるが、はぐら

かされたというか、当時は言えなかった部分があると思うが、6年がたった今、少なくとも今何かしらあるのではと思ってはいる。我々は良いが、小さい赤ちゃんとか、家が並んでいるところも有るので、本当に素朴な疑問になるが、お答えできればお願いしたい。

○ 河津委員長

側溝の上の空間線量だけで無く、土壌も、ということか。

○ 小林委員

もちろん土壌も含めて、撤去するのは行政だと思うが、お答えいただきたい。

○ 福島県 鈴木調査・分析部長

昨年の4月まで県庁の一般廃棄物課にいたので、昨年までの状況でおはなしさせていただく。環境省が実施する除染というのが、1mの高さで $0.23\mu\text{Sv}$ 以上でなければ除染はしない、という仕組みになっている。ですので、福島市や郡山市は数値が高く出るので除染でできるようになっているが、おっしゃっているようにいわき市では1mの高さで測っても高い数値が出ないので、除染はできないという風になっている。しかし、平成23、24年度あたりから、線量低減化といって高圧洗浄をかけているから、側溝にたまっているというのは市民の皆さんわかっている、それをどうしても取ってほしいという要望は強くあった。県庁の除染対策課が環境省と交渉して、昨年の秋頃に道路側溝土砂を認めましょう、その仕組みを作りましょうと言うことになって、道路側溝の土砂を取り除く仕組みを作ったということになっている。具体的な状況については把握してないが、ようやく動き出したかな、という状況ではあると考えていた。

○ 福島県 佐藤副所長

福島中央テレビの昨日の報道だが、いわき市小名浜地区で側溝の除染が始まったと言う内容で、これまでは対象外となっていたが、いわき市では住民からの要望が相次ぎ、来年3月までに377キロに行う計画で、線量にかかわらず、除染を行う、たまった泥を取り除く作業を行うと、線量にかかわらず国が全額費用負担をする、ということになったとのこと。

○ JAEA 浅妻副センター長

バキュームカーのようなもので吸い込む形になる。これまで、除去したものをどこに置いておくかというのが問題になっていたが、太いホースで吸い取るという形になる。計画については先程県からのご発言があったとおりの。

○ 河津委員長

JAEAでは、段階的に答えを出していくQ&Aを作成していたと思うが、ああいったものは非常に分かりやすいと思ったので、一般に広がっていけば良いなと思ったが、いかがか。

○ JAEA 宮原センター長

そのQ&Aを、昨年3月に公開した。国環研の方にも協力いただいて作成した。作り方としては、一般の方が抱く質問を並べて、さらにそこから技術的な質問に深掘りしていくという形にし、知る方のニーズに合わせた形式にしている。質問への答えもスライド1枚で簡潔にし、必要に応じて引用文献や根拠資料を一望できるよう、簡潔に分かりやすくというものを心がけた作りになっている。

一方で、それだけの情報だとまだまだ伝わりにくいものがあるので、Q&Aと引用文献との間を埋める解説を作成し、知見の階層的な整理を始めているので、できるだけ早く公開できるようにしていきたいと考えており、より積極的に広報していきたいと考えている。

○ 河津委員長

Q&Aがあるのはわかるが、堅いところがあるとどこにあるのかわかりにくい、どこか柔らかいところがあると良いと思う。

○ JAEA 宮原センター長

先程データベースの話があったが、関連するサイトが他にもあるので、どこか一括した窓口を決めて、そこから必要な情報にたどり着けるようなものも考えている。

○ 金子委員

先程の私の質問で、ベクレルセンターで500g検体が無いとはかれない、という話だが、多い方が正確だという話で、少なくとも正確で無ければ困ったな、というところなんです、少量の検査試料で検査できると良いな、と思ったところが私からの質問の意図だった。

○ JAEA 宮原センター長

少ない量でも測定をする技術はあり、たくさんのもを同じように測定するとそれだけの検体が必要になるということなので、あとはやり方次第だと考え

る。

(3) その他

福島県 佐々木研究部長より、研究成果報告会の日程や概要等について説明を行った。

その後、質疑等は無く、事務局の進行により閉会。